

施策No.	政策名	子どもから高齢者まで健康で共生のまちづくり	主管課	高齢福祉課	主管課長名	笠倉 洋子
1-6	施策名	高齢者福祉の推進	関係課	健康推進課、社会福祉課、介護保険課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
	高齢者が安心して健康に暮らせている。	高齢者(65歳以上の市民)	①65歳以上の人口	人	見込値	13,112	13,312	13,485	13,574	13,600
実績値					13,112	13,324	13,486	13,652	13,763	
				見込値						
				実績値						
				見込値						
				実績値						
施策の意図			成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
			①生きがいを感じている高齢者の割合	%	目標値	79.0	79.0	79.0	80.0	80.0
		実績値			75.1	72.0	67.1	68.3	70.1	
					目標値	300	300	310	310	320
	実績値				239	245	258	229	231	
				目標値	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	
				実績値	85.0	87.1	82.5	86.7	72.3	
				目標値	428	428	428	428	428	
				実績値	329	303	251	343	306	
	成果指標設定の考え方	社会貢献ができる環境を整え、健康寿命の延伸および生きがいにつなげる。日常生活の支援サービスを充実させるなど地域包括ケアシステム体制を推進し、増加する認知症患者への社会的理解を普及させるなど地域の支え合い作りを行う。								
	成果指標の把握方法と算定式等	①生きがいを感じている高齢者の割合は、市民アンケートより求める。②シルバー人材センター会員数は、年度末の登録実績より求める。③相談に対して解決した割合④認知症サポーター養成者数は、年度末の実績より求める。								

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)			
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	①生きがいを感じている高齢者の割合は、前年度68.3%に対し、70.1%で1.8ポイント上回った。新型コロナウイルスによる行動制限があり、大人数での趣味や地域活動等に費やす時間が減った反面、家族や少人数で過ごす時間が増えた等、これまでと生きがいの感じ方が変化していると推測される。 ②シルバー人材センター会員数は、昨年度より2名増加した。これは、新型コロナウイルス感染症のワクチンを接種した高齢者が、また社会で働きたいと思うようになったことが要因と考えられる。 ③地域包括支援センターで相談を受け、問題が解決した割合は前年度と比較し14.4ポイント減少した。これは、相談件数が令和2年度135件、令和3年度173件と増加傾向にある上、家族や知人など支援者が身近にいないことや経済的問題など複雑化する相談が増えていることも、早期問題解決に至らなかった要因の1つと考えられる。 ④認知症サポーター養成者数 前年度343人に対し306人と下回った。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、当初予定した講座が中止となったことが要因である。 成果指標の4つのうち、2つの指標が前年度を下回った理由として、高齢者が抱える問題が複雑化しており、早期問題解決に至らなかったこと、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、養成講座の中止となったことなどが大きな要因と考えられる。また、上回った2つの成果指標は、生きがいを感じている高齢者が増加していると判断した。これらのことから「成果がほとんど変わらない」を選択した。		
	2) 成果目標の達成状況		
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った	
背景・要因	①高齢者が生きがいを感じている割合は、目標値80.0%に対し実績値は70.1%で9.9ポイント下回った。 ②シルバー人材センターの会員数については、目標値320人に対し、実績値231人と89人下回っている。 ③相談に対して解決した割合は、目標値85.0%に対し、実績値72.3%と14.4ポイント下回った。 ④認知サポーター養成者数は、目標値428人に対し、実績値306人と大きく下回った。 以上のことから、実績比率は「目標の全てを下回った」を選択した。		
	3. 施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針		

3. 施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対しての総括	今後の課題・方針
貢献度評価の視点から令和3年度実績のあった事業は「買物支援事業」、「情報連携推進事業」、「生活支援体制整備事業」であった。「買物支援事業」では、高齢者の閉じこもり防止と買い物困難な方を支援するため、移動スーパーの運行を開始した。「情報連携推進事業」では、情報共有システムの運用を令和3年7月から開始。市内の63機関、177名の従事者が利用できるようになり、医療・介護事業所の連携がスムーズに図れる体制を構築した。「生活支援体制整備事業」では、第2層協議体に参加する市民の企画により、地区の公民館を活用した「集いの場」づくりなどの支え合い活動を計22回実践し、延190人が参加した。また、新たな第2層協議体が発足し、計5つになった。	「買物支援事業」においては、限られた運行ルートのため、地区の見直しを検討する。「情報連携推進事業」において、市内未登録事業所への普及啓発や市外の医療・介護事業所への登録推奨が課題である。情報共有システム説明会の開催、チラシの作成・配布、ホームページ等を活用し、普及啓発を図る。「生活支援体制整備事業」においては、協議体の参加者を増やし、活動を拡大していくことが課題である。チラシの作成・配布、広報、ホームページ、インターネット等を活用し、活動の周知を図り、活動への参加を呼びかける。